

発行人 関西障害者定期刊行物協会・大阪市城東区東中浜二丁目十の十三

一九八四年八月一〇日第三種郵便物認可 毎月発行

価格百円

緑橋グリーンハイツ1F アド企画

K S K P

障害者情報クラブ

ニュース

第11号

障害者自立生活フォーラム in 宝塚

—障害者自身がつくる未来—

標題のテーマで昨年九月に自立生活プログラムの学習会を、また十一月に市町村障害者生活支援事業のシンポジウムを開催しました。

みなさんは、障害者の自立という言葉を聞いて何をイメージされますか。過去における「自立」とは、身体障害者福祉法で言う「更生」

で、個人が消失した能力を回復したり、又は新たに獲得して、通常の社会活動に復帰することを意味するものでした。しかし、重度の障害を持つて生まれた人、人生の途中で重い障害を持つた人は、その時点から社会参加の機会を奪われ、排便、排尿、衣服の着脱を何時間もかかる身辺自立のための訓練として強要され、施設においてそのため

だけに一日の大半を費やしていました。又、身辺の事が自分で出来るようになつたとしても、地域から隔離された世界で規則に縛られ、「自分らしい生活」というようなものは、望むべきものではありませんでした。このような考え方は、障害を持ったない人の生活様式に障害を持つた人が努力して近づくことを目的としています。つまり、障害を

克服し否定することに価値があり、障害を持つた人の人権を葬り去つていたのです。このような狭い意味での「自立」を強要することは、障害を持つた人に対して「生きる」ことすら否定しようとしています。

現在は、ノーマライゼーションの理念も定着し、平成七年度障害者白書(総理府発行)に「障害者が人間らしく生きていくた



めに大変な努力を必要とする社会が普通の社会であつていいのであろうか。おかしい」と明確に記されています。又、国の障害者プランでは、五つの基本的考え方として、第一に障害者の主体性、自主性の確立を上げています。言い換えると、現在の日本の社会では、多くの障害者に自己決定権がなく、自分自身の人生を他人が決定してしまつてはいる、ということなのです。

宝塚市は、来年度「市町村障害者生活支援事業」を福祉施策の目玉とし、県に事業申請しました。

「市町村障害者生活支援事業」を施設の趣旨通り、障害者自身によつて企画運営する組織とするためにご支援下さい。

(障害者情報クラブ代表 井上きよし)

シンポジウム

テーマ・衛星都市の市町村

障害者生活支援事業のあ るべき姿

昨年十一月二十二日に宝塚市立東公民館で開催いたしました「障害者自立生活フォーラム」。宝塚のシンポジウムは、あいにくの雨模様にも関わらず、二百余名の参加者を集めることができました。

当クラブ代表・井上の挨拶に続いて、宝塚市長・正司泰一郎様よりのメッセージ（代理・福祉事務所長 曽我部英機様）と、衆議院議員・小池百合子様、衆議院議員・阪上善秀様、衆議院議員・中川智子様よりご祝辞を頂戴いたしました。また、兵庫県議会議員・渡部完様、同じく練木恵子様、宝塚市議会議員北野誠一氏、北山照昭様、同じく古谷仁様、同じく芝拓哉様、清荒神清澄寺

の有井良随様には来賓として応援いただきました。

○自立生活センターの活動

シンポジウムでは、まずメイストリーム協会副代表いうちひろ氏より「自立生活センター・メインストリーム協会の活動」という題で、自立生活センターの事業内容が説明されました。メインストリーム協会は民間の自立生活センターとして西宮市で活躍している障害当事者主体のNPOで、いうちさん自身も先天性障害で車いすを利用されています。自立生活センターの活動内容は、権利擁護とサービスの提供などからなっています。特に強調されていたのがサービスの提供の中の「ピア・サポート」でした。「ピア・サポート」とは、障害当事者の相談やサービスを、同じ障害を持つ人が行うシステムのことです。

これが自立生活センターの根幹をなしています。その中でさらには重要なのが、「自立生活プログラム」です。

「自立生活プログラム」とは、社会で生きていくために必要な





制度や社会の仕組みを、障害者自身がリーダーとなってサービスを受ける障害者に体験させながら習得させていくものです。健常者社会から見れば「く当たり前のこともでも、施設や養護学



校の中しか知らずに隔離された多くの障害者にとっては全く未知のことになり、電車の乗り方、切符の買い方ひとつでもその範疇からはずれないのです。このプログラムは、健常者

が関わってしまうと健常者の視点に立つたものになり、ひとつ間違えば、本人の意思と無関係なものになりがちです。障害当事者がリーダーとして、自分の経験をふまえた指導をしていくことが大事なのです。

○自立生活センターの課題

引き続き、桃山学院大学教授で全国自立生活センター協議会

常任委員でもある北野誠一氏が「自立生活センターの課題と展望」という題で、アメリカやカナダの自立生活センターの事例と、NPOとしての制度的保障、日本での理念、問題点などを話されました。全国自立生活センター協議会とは、メインストリーム協議会とは、メインストリーム協議会や障害者情報クラブのような民間の自立生活センターの全国組織で、自立生活プログラムやピア・サポートのリーダーの養成や、自立生活センターの運営指導、地方都市への

○自治体の状況

3番目に宝塚市福祉部福祉推進課長の松藤聖一氏より「自治体から見た市町村障害者生活支援事業」という題で、日本型自立生活センターといえるはずの「市町村障害者生活支援事業」の成り立ちとアメリカ型との違いを話していただきました。一九九三年になつて障害者が国民である事を認めた「障害者基本法」が制定され、一九九五年になつてようやく、まともな数値目標を掲げた「障害者プラン」が策定されたわけです。しかし、

自立生活センターの啓発などをやっています。後述する「市町村障害者生活支援事業」は、この協議会が厚生省に働きかけて制度化したものでした。特に強調されたのは、日本ではNPOに対して税制上の優遇策や身分保障がないため、民間活力の導入がやりにくいという点でした。

その過程において今までの行政主導の福祉施策では障害者特有のニーズにあつたものはできない、という反省がなされ、民間活力、特に既存の障害当事者主体の自立生活センターを支援していくシステムとして「市町村障害者生活支援事業」が生まれてきたわけです。

○生活支援事業の現状

休憩を挟んで、大阪中部障害者解放センター代表の尾上浩二氏が「市町村障害者生活支援事業の現状と課題」という題で話をされました。そして、日本の自立生活センターと市町村障害者生活支援事業、および法人格の問題を様々な資料を用いて例示し、日本のNPOに対する差別的対応、当事者主体的重要性を立証されました。

昨年から、「市町村障害者生活支援事業」が全国約30ヶ所で実施されました。町田市、川市、八王子市を除く殆どの自治体では、社会福祉法人の予算枠拡大に利用されただけで、事業の理念とはほど遠い使われ方をしていました。尾上さんの言葉を借りれば、「社会福祉法人だからできない、とは言いたくないが、事業委託されているところに限つて、基本的な事項が実施されていない」のです。

最後になりましたが、宝塚市社会福祉協議会、宝塚市保健福祉サービス公社、松本茂雄宝塚市視力障害者協会・会長、田中花桜里宝塚ろうあ協会・会長、土屋幸義宝塚内部障害者の会・会長、岸裕子宝塚市肢体不自由児・者父母の会・会長、小原冷子宝塚市手をつなぐ育成会・常務理事、赤松洋三兵庫県腎友会阪神支部・事務局長、前嶋弘氏（宝塚シニアコミュニティ）、その他多数の関係団体の支援を得て、無事終了することができました。これもひとえに参加者、

ディスカッションの席では、

宝塚市の「市町村障害者生活

支援事業」が市内で唯一の自立

生活センター・障害者情報クラブへ委託されなかつた場合の弊害などについて、具体的につつこんだ議論がなされました。



学習会

自立生活プログラムの実際

昨年九月六日に宝塚市役所大會議室にメインストリーム協会副代表のいうちひろ氏と、同じく副代表の玉木幸則氏を迎えて、自立生活プログラムの学習会を開催しました。

内部分科会のつもりでした

が、宝塚市職員や尼崎市社会福祉協議会関係者の方の参加もあり、関心の高さが伺えました。

（尚、五月頃に報告集を作成しますので、希望される方はご連絡下さい。）

関係者の皆様方のご協力の賜物と感謝しております。

（シンポジウムコーディネータ・事務局長 坂上正司）

第3回障害者政策研究全国集会に参加して

十二月六日から七日にかけて東京のお茶の水と代々木で開催された第3回障害者政策研究全国集会に、会員で脳性麻痺の障害を持つ土井克哉さんと参加してきました。

六日の朝が早く、土井さんが施設に入所していることもあって、五日の夕方からI-センターホールで宿泊訓練も兼ねて泊まることにしました。

翌日、阪急電車と大阪の市営地下鉄を乗り継いで、新大阪まで行きました。

新型車両の「のぞみ」に乗ったのですが、新型車両にしても今までの車両にしても、障害者用の個室の狭さは、どうにかならないものか、といつもながら

思います。

東京に着くと山手線に乗り換えて、お茶の水駅では、階段についているリフトで車いすを上げてもらいました。会場がすぐには分からなかつたので、駅員さんに聞くと、色々と親切に応対してくれました。

集会では、まず戦後約五十年間に政府が障害者に対して行った政策について講演が行われました。障害者への政策が、負傷した軍人の救済からスタートしていることや、障害者自身の様々な運動により、最近になつてようやく政策が少し改善されたことなどが話されました。

しかし、その様な状況の中で

土井さんの体調が思わしくなく、交流会どころではありませんでした。

交流会は、様々な地方から来た人達と話せる機会でしたが、土井さんの体調が思わしくなく、交流会どころではありませんでした。トイレも障害者用が男女ともあります。感心しました。土井さんは普段、床の上に布団を敷いて寝ているのですが、ここはベットでしか寝られない様になつたので、落ちないかと不安でなかなか眠れなかつたようです。

七日の分科会は自立支援のセミナーに参加しました。残念ながら時間の都合で最後まではいられなかつたのですが、話を聞いた中で驚いたのは、九州で一自治体、東京では十五自治体ではないかと思います。泊まったのは四人部屋で、滋賀から来られた佐野武和君、江川進市君と一緒にになりました。佐野さんは朝まで部屋に帰つてこられな

かったので、江川君とJRにエレベーターがない不便さやお互の趣味などを二時頃まで話し合いました。部屋はそんなに広くありませんでしたが、車いすでも十分奥まで入ることができます。でもなつかしくなったです。トイレも障害者用が男女ともあります。感心しました。土井さんは普段、床の上に布団を敷いて寝ているのですが、ここはベットでしか寝られない様になつたので、落ちないかと不安でなかなか眠れなかつたようです。七日の分科会は自立支援のセミナーに参加しました。残念ながら時間の都合で最後まではいられなかつたのですが、話を聞いた中で驚いたのは、九州で一自治体、東京では十五自治体で二十四時間の介護保障があるという点です。但し、利用者が一人暮らしであるという制限があります。例えば、東京の東久留米市では、二十四時間要介護の

人ならば、自薦登録ヘルパーを十六時間、全身性障害者介護人派遣事業を八時間利用して、計二十四時間の介護保障を受けることができるのです。「自薦登録ヘルパー」とは、利用者が選んだ人を市から派遣するヘルパーとして利用できる制度のことです。二十四時間の介護保障が宝塚や全国で実施されるようになり、また公的介護保障が一人暮らしでなくとも受ける事が出来るようになれば、と思いま

た。

帰りも電車を利用しましたが、新宿で乗り換えた時に駅員さんが他の会社の切符売場まで案内してくれ、また、JR新宿駅ではエスカレーターの介助に六人の駅員さんが来るなど、関西に比べて東京のサービスの良さを感じました。と同時に大阪市市営地下鉄など関西の公共交通機関のサービスの悪さを思い、関西人として悲しくなりま

した。
ということで、介護保障の問題や関西の交通機関のサービス面が印象に残る二日間でした。(アテンダントリーダー 三浦剛弘)



障害者にやさしい コンビニ エフスストア

今やすかり生活に溶け込んだ感のあるコンビニエンスストア。そんな中で、障害者にやさしい、素敵なコンビニを見つけ

障害者マークを入り口に掲げた「くらしハウス 北伊丹店」は、国道171号線と県道尼崎池田線(通称・産業道路)の交差点にあります。駐車場は広々、もちろん入口に段差はありません。店内もゆったり、何よりスゴイのはトイレ。誰でも気軽に利用できるところに大きなドアがあります。中に入ると約3畳程もある個室です。家族全員で入れそう!両側に太い手すりのついた洋式便座がデーンとあります。

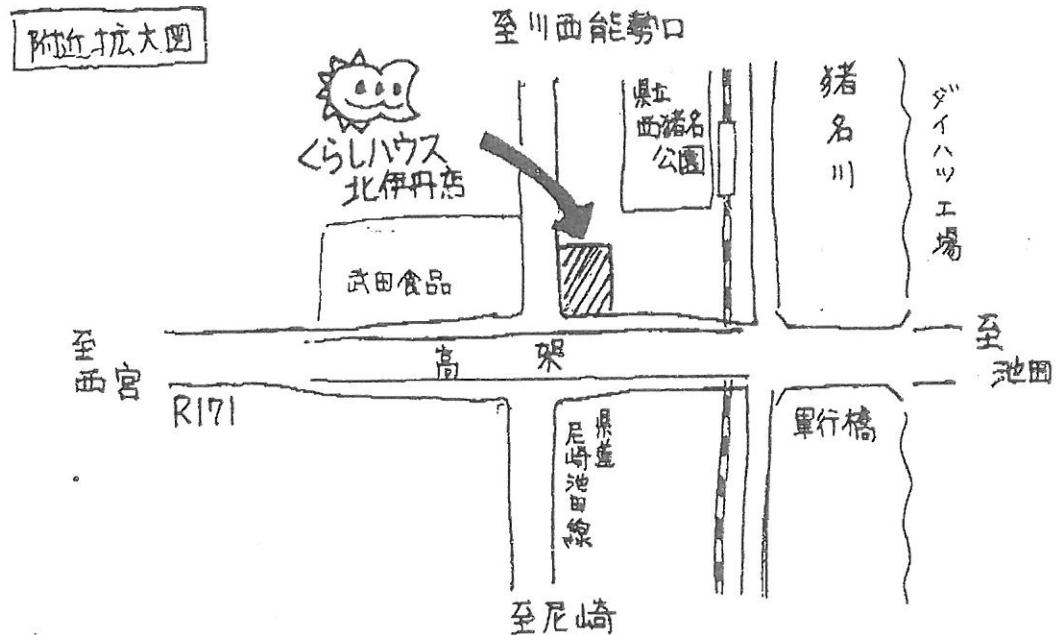
障害者から見た細かい使い勝手については私はわかりませんが、スペースゆったりで動きやすそうです。いつも掃除が行き届いているというのも、当たり前ながら気持ちが良くて嬉しいことです。

障害者にやさしい町づくりがビニに広いトイレなど不要、といふ反対を押して、小西さんの信念で実現したものということです。

コンパクトで効率第一のコンビニに広いトイレなど不要、といふ反対を押して、小西さんの信念で実現したものということです。

障害者にやさしい町づくりが徐々に進んでいますが、こんなコンビニが沢山あれば、もっと安心、もっと気軽に町へ出掛けられるでしょう。

(藤巻 恵美子)



アテンダント養成講座 を終えて

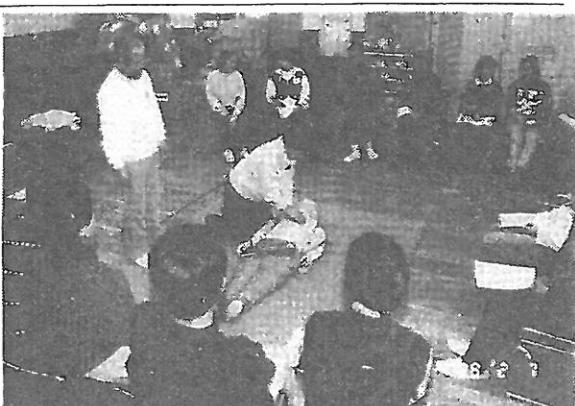
昨年十二月十三日に始まったアテンダント養成講座が二月七日の救命救急法（蘇生法）の実習で終了しました。

障害者情報クラブにとつても、I-Lセンターにとつても、初めてのアテンダント養成講座だったので、いろいろな経験をしました。司会、受付、会計など講座の運営に関する事を、今までやつたこともないI-Lセンターの障害者スタッフで挑戦しました。

最初の頃は、ドタバタ走り回っていたのですが、回を重ねるうちにだんだんと落ち着いて行動できるようになりました。

このように、いろいろな経験をし、発見や驚きがありました。その中でも特に驚いたものが、受講者の方々の数です。

この種の講座では定員を下回るのがほとんどで、受講者が少ないために講座そのものを中止してしまったという話を聞いたことがあります。ところが、今回の講座では受講者が定員を大幅に上回りました。3割の悲鳴と7割の喜びのなかでその対応におわれましたが、宝塚では障害者の福祉活動に関心のある方が多いのだと実感できたことは心強くもあり、また勇気づけら



れてもいます。
このあとアテンダント登録、
派遣事業の開始と続きます。こ
れまで以上に力を入れてがんば
ります。



(望)

(中道)

(I-Lセンター スタッフ)

I-Lセンター

スタッフ紹介

●新井裕子

新井裕子です。
どうぞよろしくお願ひしま

す。
歌とテレビが好きな、十六才
のギャルです。車イスで頑張っ
ています。

みなさん、仲良くして下さい
ネ。おしゃべりしましょ。
I-Lセンターへ遊びに来て
ね。

●中山君江

早いものですね。I-Lセンタ
ーへ通つて早、半年ですね。
山本がすごく遠く感じてたけ
れど、やつとなれてきたかな
I-Lセンターから駅までたつ
た3分程ですが、新米のワイン
とどん臭い私は、とおーい道

のりでしたネ。何回も「マリー
ズはどこですか?」と人に聞い
てマリーズのコマーシャルをし
たつけ。(コマーシャル代をも
らわなくちゃ)

初めは行くだけで疲れてたけ
ど、センターはすごく楽しい。

私も体力は少し衰えただけど、不
思議だなあ。口の方は一向に衰
えない。山本平井は前よりにぎ
やかになつたと思う。

仲間は8人いるけど、障害は
皆それぞれ違う。自分の出来る
仕事をする。私は全盲でも、方
法を工夫してもららえれば、
出来る仕事がある。皆も自分の
能力を生かして頑張つてている。
障害を持つても生かせる場所
があれば、生きがいを感じる。

私は大人しいのに話す仕事が多
いのは何でかなあ。
I-Lセンターで仲間とい
う。これぞ悩みがあり、悔し
さがあり、情けなさがある。
それでもみんな明るい。私も

まだまだ頑張らなくちやと思
う。

私と新米のウインクをどう
ぞ、ヨロシクネ。

●伊藤恵美子

はじめまして。十月よりお世
話をなつております、伊藤です。

長い主婦生活を送つていた私
は、最初戸惑うことの多い毎日
でしたが、それぞれに障害の違
う方たちが明るく、元気に I-L
センターに通つてこられる姿
に、私自身、毎日がとても勉強
になつております。

私の息子も障害を持つて生ま
れましたが、皆さんのがんば
さに接しながら、私も皆さん
お手伝いが少しでもできればう
れしいな、と思つておりますの
で、どうぞよろしくお願ひいた
します。



◎電動車いす利用者への

ひつたくり事件に

思う

一月二十六日朝、私のところへ障害を持つI・Lセンター職員がひつたくりにあつたという第一報が入った。

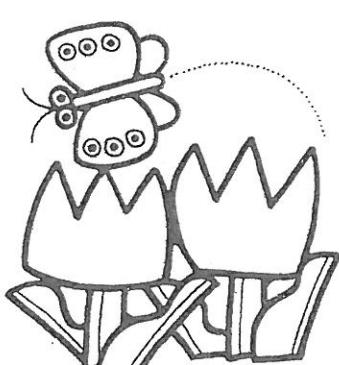
まず、第一に出た言葉は、「怪我はないか?」であった。我々障害者は、一歩、家から出ると様々な危険が待ち構えている。いくらアフリアフリーが進んできたと言っても、街は、車いす利用者やその他の障害を持つ人にとつては、まだまだ整備されておらず、緊張の連続である。このような状況の中、先般、尼崎で車いす利用者の女性とヘルパーがひき逃げされ、女性は命を落とすという事件が起きたばかりである。その矢先、宝塚でも障害を持つ者を狙つたひつたくりという悪質な事件が起つた

たことは非常に残念であり、断じて許されるものではない。我々障害をもつ者も自分の身を守るために、充分注意しなければならないが限界がある。

このような事件が、一度と起こらぬよう世論の喚起が望まれると同時に、我が国においても障害者の人権を擁護するための法整備を急がねばと考える今日この頃である。

(障害者情報クラブ代表

井上
きよし)



笑顔いっぱい

—高松君、高校合格—

僕は、大商学園を併願で合格して、「すごい」と言われて、おどろいた。

本当に合格したんだなーと思いました。

ほほがゆるみつぱなしでした。

学校説明会に行つた時から親切で、印象が良かつた。前にもつと重度の障害者受け入れたこともあり、「君は軽い方だ」と言われ、ほつとしました。
受ける前はどうなることかと思つていたけど、あまり緊張もせず、受けられたと思う。そして公立のテストを受けるのもままならなかつたけど、入れる可能性が出てきた。だから親にハツパをかけられている。

(高松
勇)

車いす安心補償プラン

賠償責任 1億円

◆特徴

日常生活においてケガした場合の入院・通院費用および他人にケガをさせてしまった場合の費用や他人の物を壊してしまった時の費用などを補償します。



契約タイプ		交通事故	左記以外
ケ ガ の 補 償	死亡・後遺症傷害	250万円	100万円
	入院日額	3000円	1000円
	通院日額	2000円	500円
賠償責任保険		1. 介護料	

交通事故とは車いすに乗っている間の事故を指します。

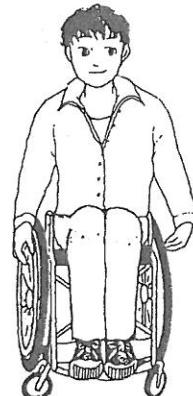
◆対象

手動車いす・電動車いすにのっている方
ただし、時速6kmを越える外国製の車いすの方は対象となりません。

◆おすすめのポイント

1. 安心 賠償責任保険なんと1億円補償
2. 簡単 ご加入の際には、健康診断などは不要です。
3. 手間いらず 保険料のお支払いは便利な口座振替です。

自動継続方式なので継続の手続きは必要ありません。



月々わずか 6,000円

日本火災海上保険 大阪専業開発課

TEL 06-399-3271

携帯 030-678-5043

ほんだ かつき

本田 勝基

しゃべりかた

車いす

車イス介護マニアアルビデオ

このほど、私が会員で、大阪を中心に活動している障害者サークル・クリエイトが「車イス介護マニアアルビデオ」を完成させました。

この介護マニアアルは手押し車イスと電動車イスの扱い方を中心、外出をするときに必要な初步的な車イス介護のノウハウをビデオ化したものです。このマニアアルを作ったのは、実際には「マニアアル通り」介護は行わない、と言うことです。

例えば、私が見たことのある福祉団体が出している介護マニアアルの中には、階段を車イスを持ち上げて運ぶときにはブレーキを掛ける、となっています

が、私たちの経験ではブレーキを掛けない方が、スムーズに階段の際から離れるので、より安全だと言えます。

各地の学校などの公共施設で

この介護ビデオの上映会を開きますので、お近くで催されたときは是非お越し下さい。

(クリエイト会員・障害者情報
クラブ会員　示村　修二)



第一回 いざがたり／アルビデオ

*実費1,500円でお分けしています。ビデオに関するお問い合わせは次の通りです。

クリエイト会長 小西 正芳

TEL&FAX 06-394-0325

e-mail=fwih8050@mb.infoweb.or.jp

『車いすでカリフオルニア』自著紹介

障害者情報クラブの皆さん、

はじめまして。「こはま・あきひさ」と申します。テレビ好きが、日々の生活にテレビとチョコレートは欠かせません。頸髄損傷による身体障害があり、おもに電動車いすを利用して日常生活を送っています。

原子核物理学（理論）の研究が本業で、東京都の清瀬市にある日本社会事業大学で一般教養の数学を教えてもらいます。

最近私が楽しみにしているものの一つに、毎週木曜日の夜八時から放映されている「超！よしもと新喜劇」（TBSテレビ）があります。質の低いお笑い番組の多い昨今、この番組には視聴者や観客を笑わせようという気迫が感じられて嬉しいです。

ビデオに録画して欠かさず見ております。妻は山田花子の白くてぼちやぼちやしたところが可愛い、と申しますが、男の私はいまひとつ理解できません。

むしろ私としては、藤井隆のくねる腰に魅力を感じています。

ところで、私の苗字と名前は読みにくく、いつも人を悩ませています。「小浜（おばま）」と

いう地名が福井県西部と長崎県の島原半島にあります。私の苗字はこれとは違う読み方です。さらに深刻なのは名前です。読みにくくいう間に発音までしづらいのです。このことを痛感したのは、六年前に初めて海外へ行つたときのことです。

滞在中お世話になつたニュージーランド出身のコンピュータ技術者のNさんは私に向かって、「やあ、アキヘソ」「来週の予定はどうしますか、アケヘサなどと、自分が呼ばれているとは思えない呼び方をしてくれま

した。「アキヒサ」と正しい発音をお教えたのですが、向こうも正しく発音しているつもりで、両者の溝は埋まりません。そこでしかたなく、短く「アキ」と呼んでもらうことにしました。これは大成功で、それ以来、日本語以外を母語とする人に私の名前を伝えるときは、「アキと呼んじゃってください。」と言ふようにしています。

さて、この六年前の海外行きというのは、一九九一年の夏に私が妻の真実子とロサンゼルス郊外にあるカリフォルニア州立大学ノースリッジ校を訪れ、そののどかな町で「一ヶ月間を過ごしてきました」とことです。そして、拙著『車いすでカリフォルニア』は、飛行機にすら乗ったことのなかつた私たちの、初めての海外生活をまとめた記録です。私の物理学の共同研究が滞在目的で、妻は介助者として同行しました。

本文は、私が車いすに乗る者の立場から、真実子が介助者の立場から、それぞれ書いていました。海外に行く際の準備や向こうでの経験を中心に、アクシデントや失敗談もまじえて、できるだけ具体的に綴りました。ついで、臨場感をもつて海外生活の楽しさを表現したつもりですが、また、写真とイラストは妻が担当しています。

例えば、私たちの生活した学生寮の部屋は、「車いす利用者向け」といわれていました。「寮でそんな設備があるなんてすばらしい。」と胸ときめかせていました。私たちを待ちかまえていたのは、広々とした、たしかに車いすで動きやすい部屋でした。ところが生活は、「動きよければそれでよし」という訳ではありません。基本的な生活に必要な洗面所、風呂場、ベッドなどが車いすに乗ったままでは使えないこ

とが到着したその日に判明していました。帰りたくなる気持ちを押さえ、どうやってそれらの問題を解決していくかを書きました。

また、車の運転をしない私たちは、リフト付きのバンやバスを利用して出歩きました。ショッピングセンターに映画を観に行ったり、カリフォルニア工科大学（カルテク）へセミナーを聴きに行つたり、ユニバーサル・スタジオにも行つてきました。身体に障害をもつ人に配慮したコンピュータの情報も、本書の大重要な要素の一つです。もちろん、この滞在の主目的である私の共同研究についても触れてあります。

車いすで海外へ行く際の情報源として使ってもらいう」とが、この本を書いた目的の一つです。もちろん、そのような「予定のない方に読んでいただいても、十分楽しめるようにしたつ

もりです。とりわけ、障害者情報クラブの皆様に拙著をお読みいただき、感想や意見をお寄せいただければ、これに勝る喜びはありません。反響をいただけあかつには、テレビとチヨコレートのない禁欲生活を一日ぐらいは送つてもいいと思つておられます。何卒よろしくお願ひ致します。

*宛先：〒113-0032

東京都文京区弥生2-9-10
カーサ・デ・トキ 101

e-mail:kohama@kynt2.phys.s.u-tokyo.ac.jp

『車いすでカリフォルニア』

日本評論社・四六判上製。248頁。本体価格・1500円。

著者：小濱洋央（こはまあきひさ）・小濱真実子（こはままみこ）（共著）

事業報告抜粋 (1997年9月1日～1998年1月31日)

〈9月〉

- 05 (金) 自治労宝塚市職労より IL センター開所のお祝い
06 (土) 障害者自立生活フォーラム in 宝塚 プレ企画 @市役所大会議室
「自立生活プログラムの現在」玉木幸則氏、井内ちひろ氏
09 (火) 宝塚市議会傍聴
18 (木) 箕面東高校パネル貸出：増田先生、坂上
19 (金) 障害者生活支援事業基本計画作業部会 @福祉センター
27 (土) 箕面東高校文化祭・障害者問題を考える会パネル展示
30 (火) 住宅課より車いす利用者用公営住宅打ち合わせ：井上み

〈10月〉

- 02 (木) 住宅課と情報交換：井上み
桃山学院大学北野誠一教授と懇談
03 (金) 仁川コミュニティ協議会へ街づくりについて助言：坂上
04 (土) 被災地障害者センター・長期ボランティアセミナーへ参加：中道、光森
05 (日) ~7 (火) ·研修 JIL「立生活プログラム体験」参加：吉永
08 (水) IL センター運営委員会・役員会 @福祉センター
09 (木) IL センター利用者会議
11 (土) ~12 (日) はがき通信懇談会
17 (金) 役員会 @IL センター
18 (土) 被災地障害者センター・長期ボランティアセミナーで講演
「ユニバーサルデザインとは バリアフリーな街づくり」：坂上
被災地障害者センター・長期ボランティアセミナー参加：光森、有田、三浦
21 (火) バリアフリー社会を実現する会 @MSA：三浦、坂上
25 (土) IL センター開所式 (会員向) @IL センター
長尾中学校育友会長と情報交換：坂上
シンポジウム「考え方学童保育」パネラー @女性センター：井上み
27 (月) 障害者情報クラブニュース 10号発送 @宝塚郵便局：中道、中村、坂上
28 (火) 宝塚外出介助の会・安本会長来訪
30 (木) 兵庫県福祉の街づくり工学研究所 会議 @兵庫県庁
- 〈11月〉
- 01 (土) 障害者自立生活フォーラム in 宝塚・スタッフ会議：中道、三浦、
井上み、坂上

- 08(土) 箕面東高校障害者問題を考える会交流会 @ILセンター
障害者自立生活フォーラム in 宝塚・スタッフ会議
- 15(土) 障害者自立生活フォーラム in 宝塚・スタッフ会議
- 18(火) 「日米自立生活セミナー ー新しい時代へ向けてー」参加
- 22(土) 「障害者自立生活フォーラム in Takarazuka」開催 @東公民館
- 25(火) 障害者情報クラブニュース11号編集会議

〈12月〉

- 05(金) 宿泊体験 @ILセンター：土井、三浦、中道
- 06(土) ~07(日) 第3回障害者政策研究全国集会：土井、三浦
- 10(水) 福祉推進課と情報交換：坂上
- 12(金) ニュース編集会議
ILセンター運営委員会・役員会
- 13(土) アテンダント養成講座 ◇開講式 ◇オリエンテーション
◇第1回障害講座「視力障害者」
◇実習：「車いす・視力障害者介助法」
- 16(火) バリアフリー社会を実現する会 @MSA：坂上、三浦
- 20(土) アテンダント養成講座
◇実習：「応急手当」
◇第2回障害講座「てんかん」
- 21(日) ILセンター忘年会 @大八車
- 23(火) 社協荒木氏と障害者生活支援事業打ち合わせ：坂上
- 25(木) 障害者生活支援事業備品見積（神戸、梅田へ）：坂上

1998年

〈1月〉

- 12(月) 障害者情報クラブニュース11号編集会議 @ILセンター
乾一三・平井自治会長表敬訪問：坂上
- 18(日) 第3回ボランティアフェスティバル・バザー @総合福祉センター
- 24(土) アテンダント養成講座
◇講義・実習：「更衣介助」
◇第3回障害講座「頸髄損傷」
- 26(月) ひったくり事件
- 27(火) 身体障害者自立協会来訪
障害者情報クラブニュース11号編集会議 @ILセンター

資金局から

郵便振替

記印14360 條印43110611

障害者情報報(HP)

I-Lセンターでは、当面は収

益性の低い公益的な事業を主体に展開しますので、2年程度は赤字になると思われます。そこで、皆様からの寄付を募りたいと思います。「寄付の方法は、現金書留、郵便為替、あるいは下記の口座への振替・振込等を御利用ください。

また、宝塚市善意銀行(宝塚市社会福祉協議会・宝塚市安倉西2-1-1)へ払い出し先指定の寄付(払い出し先を障害者情報クラブとする寄付)をされると、その一部が法人税・所得税の控除対象となります。「支援・」協力のほどをよろしくお願ひいたします。

銀行口座
やくひん銀行 逆瀬川支店
普通預金3566211
障害者情報クラブ 井上聖

* 西公民館の自動販売機

を「J利川」だわ。

宝塚市立西公民館(阪急今津

線小林駅から徒歩一分)の「二

階」に設置されている「大塚製

薬」の自動販売機は、管理のユ

ニマントの「協力により収益の

一部が障害者情報クラブの運営

費として一九九四年四月より寄

付されています。

・ホームページ

しかし、二階の分かりにくい場所に置かれているため、なかなか収益があがらず、昨年度は当クラブに入る寄付額より自動販売機管理経費が上回り、赤字に陥ってしまいました。

皆さん、西公民館を「利用の

おりには、是非、「大塚製薬」

の自動販売機を「利用いただ

き、当クラブを応援して下さい。

事務局から

http://www.kwansei.ac.jp/

page6/hp/text/hosi2.htm

です。あわせてご覧下さい。

・新郵便番号

「一月一日から郵便番号が

「665-0816」になりました。

住所録の変更をお願いします。

・電子メール

電話・FAX以外にも電子メ

ールで問い合わせにお答えし

ています。アドレスは

sakae@butaman.ne.jp

です。

・仮想回数カード

スル*

正会員向けのサービスとしてメーリングリストを提供しています。正会員の方で興味のある方は、sakae@butaman.ne.jpまでメールをお願いします。

・アクセス関西カード

グリース*

障害者・高齢者に優しい街づくりについてのアンテナ・メーリングリスト「アクセス関西」を一般に提供しています。主に車いす利用者の交通環境・街づくりについての情報交換を目的としています。興味のある方はsakae@butaman.ne.jpまでメールを送って下さい。

また、関西学院大学理学部同窓会のホームページで当クラブへの支援の呼びかけをしていました。URLは、

【註】

*印のメールアカウント、ホームページ、メーリングリストは、BUTAMAN INTERNET 上り無償提供されています。

会計局から

「J」支援

ありがとうございます

(一九九七、八・一三)

(一九九八、二・一〇)

「J」寄付（敬称略）

西岡輝子（宝塚市）／宝塚市

職員労働組合／大上清（宝塚市）／近木伊津子（宝塚市）

新井裕子（宝塚市）／篠原彌一（伊丹市）／宝塚途中難聴者会／大谷久弥（宝塚市）／上屋幸義（宝塚市）／坪山孝美（宝塚市）／代康治（宝塚市）／小中正二（宝塚市）

●改裝協力（敬称略）

岸幸男（宝塚市）

●バザー用品提供者（敬称略）

松下和（宝塚市）／ゆづり葉

台自治会一同／世話役・若本

和嘉子／脇田慶一（宝塚市）

／今枝和子（宝塚市）／日下

勝平（宝塚市）／谷崎重夫（宝塚市）／関西学院高等部職員有志

院奉仕部／土屋菊男（西宮市）／枝川豊（西宮市）／柴田努（福島県）／川崎寿子（三田市）／山根トミエ（宝塚市）／小林照子（宝塚市）／関西学院高等部／関西学院大学宗教総部

小寺敏郎（西宮市）／京嶋佳誉子（宝塚市）／小林聖心女子学

院奉仕部／土屋菊男（西宮市）／枝川豊（西宮市）／柴田努（福

島県）／川崎寿子（三田市）／山根トミエ（宝塚市）／小林照

子（宝塚市）／関西学院高等部／関西学院大学宗教総部



「障害者情報クラブニュース」第11号 1998年3月26日発行

編集者 障害者情報クラブ

編集責任者 障害者情報クラブ事務局長 坂上 正司

所在地 〒665-0816

兵庫県宝塚市平井2丁目1番10号ハイツフーオー205号

障害者情報クラブ事務局長・坂上 TEL 0797-88-4329

FAX 0797-88-0779

障害者情報クラブILセンター TEL&FAX 0797-82-2233

e-mail:sakae@butaman.ne.jp

郵便振替 記号14360 番号43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 さくら銀行逆瀬川支店普通預金 3566211 障害者情報クラブ代表井上聖